



MOTIF XS Extension/ MOTIF-RACK XS Extension 取扱説明書

目次

MOTIF XS Extension/MOTIF-RACK XS Extensionとは	2
Extensionで実現される機能	2
■ オーディオドライバーの自動設定	2
■ リモートデバイスとして自動設定	3
■ 入出力バス設定済みのプロジェクトテンプレートを用意	3
■ MOTIF XS6/7/8のソングの読み込み	5
困ったときは	6

ご注意

- ・ このソフトウェアおよびマニュアルの著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- ・ このソフトウェアをインストールする前に、必ずソフトウェア使用許諾契約をお読みください。ソフトウェア使用許諾契約は、MOTIF XS Extension/MOTIF-RACK XS Extensionインストールガイドの巻末に記載されています。
- ・ このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- ・ このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・ MOTIF XS Extension/MOTIF-RACK XS Extensionは、改良のため予告なしにバージョンアップすることがあります。最新ソフトウェアは、下記URLからダウンロードできます。
<http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/dl/>
- ・ このマニュアルに掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- ・ 市販の音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- ・ CubaseはSteinberg社の登録商標です。
- ・ Windowsは、米国Microsoft® Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ MacまたはMacintoshは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- ・ MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- ・ その他、このマニュアルに掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
- ・ アプリケーションのバージョンアップなどに伴うシステムソフトウェアおよび一部の機能や仕様の変更については、下記URLをご参照ください。
<http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/>

MOTIF XS Extension/MOTIF-RACK XS Extensionとは

MOTIF XS Extension/MOTIF-RACK XS Extension (以下Extension)は、Steinberg社製DAWソフトウェアの機能拡張を目的としてヤマハが開発したプログラムプラグインとプロジェクトテンプレート集です。これをインストールすると、Steinberg 社製DAWとMOTIF XSシリーズ(MOTIF XS6/7/8やMOTIF-RACK XS)を組み合わせる場合に、さまざまな連携機能を実現できます。

本書では、Cubase 5/Cubase 4/Cubase Studio 5/Cubase Studio 4/Cubase Essential 4/Cubase AI 4およびExtensionがインストールされたコンピュータに、IEEE1394ケーブルを使ってMOTIF XSシリーズを接続した場合について説明します。なお、MOTIF XS6/7/8のソングの読み込みについては、USB記憶装置を準備するか、MOTIF XS とコンピュータを、イーサネットケーブルでネットワーク接続しておく必要があります。

NOTE

- ・ Extensionで実現される機能（「ソングの読み込み」は除く）を活用するためには、MOTIF XS6/7やMOTIF-RACK XSにオプションのmLAN16E2が装着されている必要があります。本書では、MOTIF XS6/7やMOTIF-RACK XS にmLAN16E2が既に装着されている前提で説明を行います。
- ・ MOTIF XS6/7/8ソングの読み込み機能を利用するにはCubaseのVersionが4.5.2以降である必要があります。

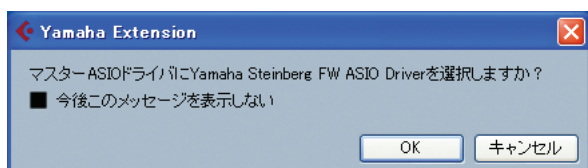
Extensionで実現される機能

Extensionをインストールすると、Cubase 5/Cubase 4/Cubase Studio 5/Cubase Studio 4/Cubase Essential 4/Cubase AI 4とMOTIF XSシリーズとを組み合わせ、以下の機能を実現できます。

- ・ オーディオドライバーの自動設定
- ・ 機器名を含めたオーディオ/MIDIポート名表示
- ・ リモートデバイスとして自動設定 (MOTIF XS6/7/8のみ)
- ・ 入出力バス設定済みのプロジェクトテンプレート
- ・ MOTIF XS6/7/8のソングの読み込み (MOTIF XS6/7/8のみ)

■ オーディオドライバーの自動設定

Extensionをインストールしておく、Cubase起動時に下記画面が表示され、[OK]をクリックすることでSteinberg DAW対応ドライバー(Yamaha Steinberg FW Driver) に自動的に切り替えられます。



NOTE

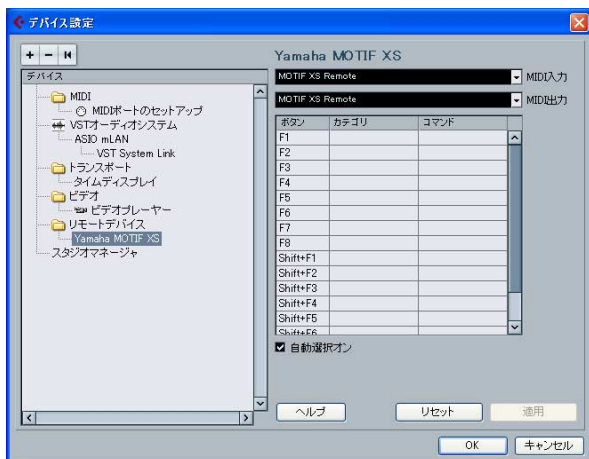
- ・ この機能を実現するため、Cubase を起動する前にMOTIF XSシリーズ本体とコンピュータをIEEE1394ケーブルで接続し、MOTIF XSシリーズ本体の電源を入れておいてください。

■ リモートデバイスとして自動設定

MOTIF XS Extensionをインストールしておくと、MOTIF XS をコンピューターにIEEE1394ケーブルで接続し Cubase を起動するだけで、MOTIF XSがCubaseのリモートデバイスとして自動的に登録されます。MIDIポートなども自動的に設定されます。[デバイス] → [デバイス設定] で呼び出されるデバイス設定画面上で確認してみましょう。

MOTIF XSパネル上でのリモート機能の割り当てについては、MOTIF XS取扱説明書およびデータリスト2 をご参照ください。

MOTIF-RACK XSはリモートデバイスとして設定されません。



表示されるMOTIF XS6/7/8のリモートデバイス名、および各リモートデバイスに設定されるMIDIポート名は以下になります。

リモートデバイス名: Yamaha MOTIF XS

設定されるMIDI In/Outポート: MOTIF XS6/7/8 Remote

NOTE

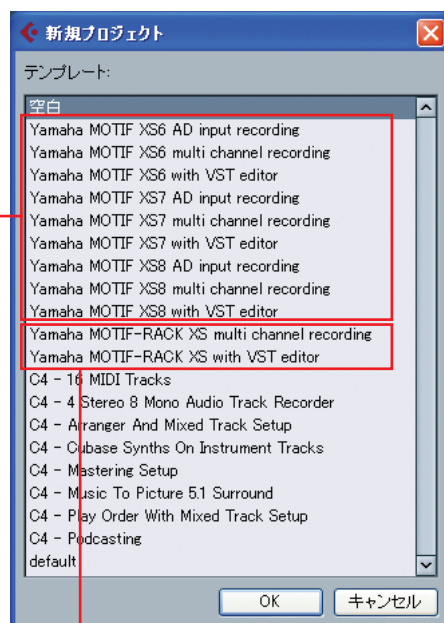
- ・ Cubaseを起動して自動登録されたあとにMIDIポートを変更した場合でも、再起動すると上記のMIDIポートに再設定されます。
- ・ IEEE1394ケーブルによる接続以外に、USB接続の場合でも、リモートデバイスにYamaha MOTIF XS6/7/8を選択できます。デバイス設定画面の[+]をクリックすると出てくるデバイスの一覧から、「Yamaha MOTIF XS6/7/8」を選択してください。ただしこの場合、MIDIポートは手動で設定してください。

■ 入出力バス設定済みのプロジェクトテンプレートを用意

Extensionをインストールすると、MOTIF XS6/7/8やMOTIF-RACK XS用のプロジェクトのテンプレートがインストールされます。Cubaseで新しいプロジェクトを作成するときに、このテンプレートを選択すると、VST コネクションの入出力バスが設定済みのため、面倒なオーディオポートとバスの設定を手動で行なうことなく、すぐにマルチオーディオ録音などが行なえます。

NOTE

- ・ プロジェクトテンプレートとMOTIF XSシリーズ本体の設定を一致させるため、Editorあるいは本体ADのOutputをm13&14に設定してください。
- ・ プロジェクトテンプレートを選択すると、それまで設定されていた入出力バスの設定は上書きされます。



MOTIF-RACK XS用プロジェクトテンプレート
MOTIF XS6/7/8用プロジェクトテンプレート

MOTIF XS6/7/8用プロジェクトテンプレート

- **Yamaha MOTIF XS multi channel recording**
Cubaseの各オーディオトラックに、MOTIF XSの各チャンネルのオーディオ出力がマルチで入力される設定です。MOTIF XSのオーディオ出力をマルチで録音したいときにお使いいただくと便利です。
VSTコネクション画面の入出力バスとデバイスポートの設定は、以下のとおりです。

Cubase Inputs	
Input Bus	Device Port
MOTIF XS Main	MOTIF XS6(7,8) Main L
	MOTIF XS6(7,8) Main R
MOTIF XS 1/2	MOTIF XS6(7,8) 1
	MOTIF XS6(7,8) 2
MOTIF XS 3/4	MOTIF XS6(7,8) 3
	MOTIF XS6(7,8) 4
MOTIF XS 5/6	MOTIF XS6(7,8) 5
	MOTIF XS6(7,8) 6
MOTIF XS 7/8	MOTIF XS6(7,8) 7
	MOTIF XS6(7,8) 8
MOTIF XS 9/10	MOTIF XS6(7,8) 9
	MOTIF XS6(7,8) 10
MOTIF XS 11/12	MOTIF XS6(7,8) 11
	MOTIF XS6(7,8) 12
MOTIF XS AD in	MOTIF XS6(7,8) 13
	MOTIF XS6(7,8) 14

Cubase Outputs	
Output Bus	Device Port
MOTIF XS Main	MOTIF XS6(7,8) Main L
	MOTIF XS6(7,8) Main R
MOTIF XS Asgn	MOTIF XS6(7,8) Asgn L
	MOTIF XS6(7,8) Asgn R
MOTIF XS FW	MOTIF XS6(7,8) FW L
	MOTIF XS6(7,8) FW R

- **Yamaha MOTIF XS AD input recording**
Cubaseのオーディオトラックに、MOTIF XSのADインプットチャンネルの信号が入力される設定です。MOTIF XSをCubaseの「外部インストゥルメント」として設定する際にお使いいただくと便利です。入出力バスとデバイスポートの設定は、上記Yamaha MOTIF XS multi channel recordingと同じです。ただし、入力バスの設定はMOTIF XS AD inのみになっています。
- **Yamaha MOTIF XS with VST Editor**
CubaseのVSTインストゥルメントトラックに、MOTIF XSエディターVSTが自動的に追加された設定です。

NOTE

- MOTIF XSエディター VSTは下記URLよりダウンロードしてください。
<http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/dl/>

MOTIF-RACK XS用プロジェクトテンプレート

- **Yamaha MOTIF-RACK XS multi channel recording**
Cubaseの各オーディオトラックに、MOTIF-RACK XSの各チャンネルのオーディオ出力がマルチで入力される設定です。
MOTIF-RACK XSのオーディオ出力をマルチで録音したいときにお使いいただくと便利です。
VSTコネクション画面の入出力バスとデバイスポートの設定は、以下のとおりです。

Cubase Inputs	
Input Bus	Device Port
RACK XS Main	MOTIF-RACK XS Main L
	MOTIF-RACK XS Main R
RACK XS 1/2	MOTIF-RACK XS 1
	MOTIF-RACK XS 2
RACK XS 3/4	MOTIF-RACK XS 3
	MOTIF-RACK XS 4
RACK XS 5/6	MOTIF-RACK XS 5
	MOTIF-RACK XS 6
RACK XS 7/8	MOTIF-RACK XS 7
	MOTIF-RACK XS 8
RACK XS 9/10	MOTIF-RACK XS 9
	MOTIF-RACK XS 10
RACK XS 11/12	MOTIF-RACK XS 11
	MOTIF-RACK XS 12
RACK XS 13/14	MOTIF-RACK XS 13
	MOTIF-RACK XS 14

Cubase Outputs	
Output Bus	Device Port
RACK XS Main	MOTIF-RACK XS Main L
	MOTIF-RACK XS Main R
RACK XS Asgn	MOTIF-RACK XS Asgn L
	MOTIF-RACK XS Asgn R
RACK XS FW	MOTIF-RACK XS FW L
	MOTIF-RACK XS FW R

- **Yamaha MOTIF-RACK XS with VST Editor**
CubaseのVSTインストゥルメントトラックに、MOTIF-RACK XSエディターVSTがあらかじめ追加された設定です。

NOTE

- MOTIF-RACK XSエディター VSTは下記URLよりダウンロードしてください。
<http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/dl/>

■ MOTIF XS6/7/8のソングの読み込み

MOTIF XS Extensionをインストールすることにより、MOTIF XS のソングデータをCubase のプロジェクトに読み込むことができるようになります。MIDI イベントだけでなくトラックに録音されたオーディオデータも合わせて読み込まれます。ただしミキシング設定は読み込まれません。

また、MOTIF-RACK XSのソングは読み込めません。

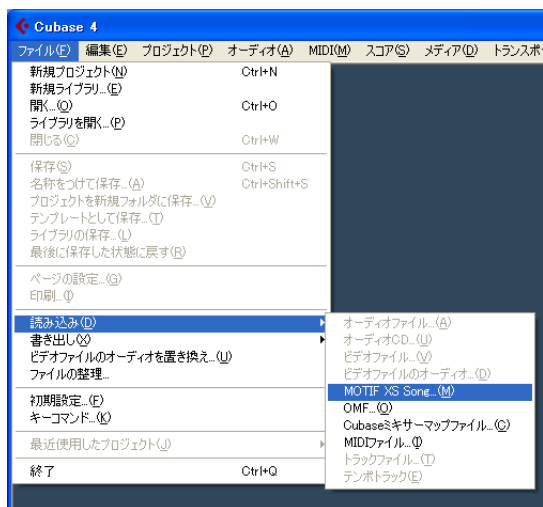
ソングの読み込みは、以下の手順で実行できます。

- 1 MOTIF XS のファイルモードで、MOTIF XS 本体で作ったすべてのユーザーデータ(ファイルタイプ = All)を、USB TO DEVICE端子に挿入したUSB記憶装置に保存(セーブ)します。続いて、USB 記憶装置をMOTIF XS からはずし、コンピューターのUSB端子に挿入します。

USB記憶装置には、拡張子「.XOA」のファイルがUSB記憶装置に保存されます。

なお、MOTIF XS がコンピューターとイーサネットケーブルでネットワーク接続されている場合は、保存先(セーブ先)としてコンピューターのハードディスクドライブを指定するのもよいでしょう。

- 2 コンピューター上で、[ファイル]→[読み込み]→[MOTIF XS Song]を選択します。
「読み込み MOTIF XS Song」画面が表示されます。

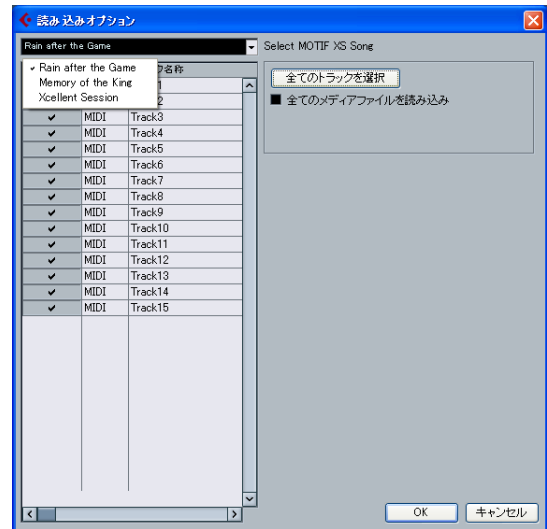


- 3 「読み込みMOTIF XS Song」画面で、手順1で保存されたファイル(拡張子: XOA)を選び、[OK] をクリックします。

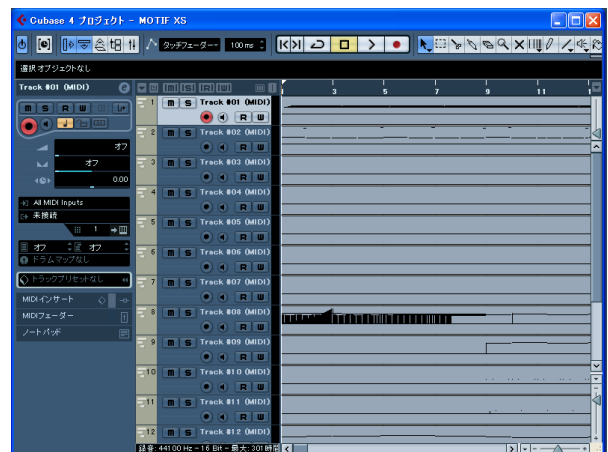
ディレクトリーの選択画面が表示されます。

- 4 ディレクトリーの選択画面で、Cubase のプロジェクトファイルの保存先を選択し、[OK]をクリックします。
読み込みオプション画面が表示されます。

- 5 読み込みオプション画面で、読み込むソングをプルダウンメニューから選択し、取り込むトラックをチェックした上で[OK]をクリックします。



画面上部のポップアップメニューから読み込みたいソングを選び、続いて読み込みたいトラックを選びます。ソング全体を読み込みたい場合は「全てのトラックを選択」をクリックします。ソングとトラックを選択したあと、[OK] をクリックして読み込みを実行します。指定したソングの各トラックデータがCubase のプロジェクトの各トラックに読み込まれます。



読み込むソングについて

ファイルとプロジェクトについて

- ・読み込みの対象は、MOTIF XS の「All」タイプのファイル(拡張子: XOA) だけです。その他のタイプのファイルは、ソングデータが含まれていたとしても読み込み対象にはなりません。
- ・ソングの読み込みで作られたプロジェクトのサンプリング周波数は44.1 kHz になります。したがって、MOTIF XSソングモードでサンプリング周波数 = 44.1kHz 以外でサンプリングされたサンプルボイスは、ソング読み込み後のプロジェクトで、正しいピッチで鳴りません。サンプルボイスを含むソングをCubaseに読み込みたい場合は、MOTIF XSソングモードでのサンプリング時の周波数を44.1kHzに設定してください。

MIDIトラックについて

- ・MOTIF XSソングのMIDIトラックは、そのままMIDIトラックとしてCubaseプロジェクトに読み込まれます。各トラックに設定されているMIDI送信チャンネル設定も、そのまま引き継がれます。
- ・ソングモード以外のモードでのサンプリングにより作られたユーザーウェブフォームを使ったボイスで録音されたトラック、つまりサンプルボイスを使っていないトラックは、MIDIトラックとして読み込まれます。
- ・MOTIF XSソングのミキシング設定は読み込み対象にはなりませんので、ボリュームやパンは「オフ」に設定された状態でプロジェクトに読み込まれます。

オーディオトラックについて

- ・MOTIF XSソングのオーディオトラック (サンプルボイスを呼び出すプログラムチェンジが記録されているトラック) は、そのままオーディオトラックとして Cubase プロジェクトに読み込まれます。
- ・ミキシング設定は読み込み対象にならないので、ボリュームは0 dB、パンはセンター、EQはフラットに設定された状態でプロジェクトに読み込まれます。
- ・「全てのメディアファイルを読み込み」にチェックを入れている場合、サンプルボイスのウェブフォームを構成するサンプル(波形)のうち、実際にソングトラックに録音されているノートナンバーが所属するキーバンクのサンプルだけが、プロジェクトへの読み込み対象となります。ソングトラックで使われているサンプルボイスの全サンプル(波形)を読み込みたい場合は、「全てのメディアファイルを読み込み」にチェックを入れてください。

その他

- ・ソングの読み込みでは、MOTIF XS ソングのトラックに録音されたデータだけが対象になります。ミキシング設定はプロジェクトに読み込まれないので、ご注意ください。ミキシング設定を反映させたい場合は、MOTIF XSエディターを活用しましょう。Cubase 上から Studio Manager、MOTIF XSエディターを順次起動し、MOTIF XSエディターから「All」ファイル (拡張子: XOA) を呼び出すと、ソング指定を促すメッセージが表示されます。ここで、プロジェクトに読み込んだのと同じソングを指定すると、ミキシング設定がMOTIF XS エディター上に読み込まれます。続いて、MOTIF XSエディター上でSync 機能を実行すると、指定したソングのミキシング設定がMOTIF XS本体に反映されるので、Cubase を再生させたときにオリジナルソングのサウンドが正しく再現されます。
- ・パターンデータやアルペジオデータは読み込まれません。
- ・読み込んだソングをMOTIF XSに戻すことはできません。

困ったときは

■ MOTIF XS6/7/8 から Cubase をリモートコントロールできない

- ・MOTIF XS6/7/8 とコンピューターがIEEE1394 ケーブルで接続されていますか？
- ・Cubase 5、Cubase 4、Cubase Studio 5、Cubase Studio 4、Cubase Essential 4、Cubase AI 4 のいずれかをお使いですか？ Cubase SX3 など Cubase 4 より前のバージョンでは Cubase との連携機能は動作しません。
- ・Cubase のデバイス設定ウインドウ ([デバイス] メニュー → [デバイス設定]) で、リモートデバイスとして「Yamaha MOTIF XS」が登録されていますか？また、MIDI の入出力のポートとして「MOTIF XS Remote」が選択されていますか？選択されていない場合は、手動で設定しなおしてください。

■ プロジェクトテンプレートがない

- ・Extension が正しくインストールされていますか？
- ・プロジェクトテンプレートファイルは以下の場所にインストールされています。

Windows

C:\Program Files\Common Files\Steinberg\Project Templates

Macintosh

/Library/Application Support/Steinberg/Project Templates

■ MOTIF XS ソングをうまく読み込めない

- ・Cubase のバージョンは 4.5.2 以上ですか？
- ・読み込みオプション画面のプルダウンメニューでソングを選べない場合、または読み込んだソングのトラックデータが空だった場合は、MOTIF XS で録音したソングを本体内部メモリーにストアせずに USB 記憶装置にセーブした可能性があります。MOTIF XS でソングを録音した場合は、必ずストアを実行してから、セーブを実行しましょう。